

最終戦 白星で飾れず



天理大は、パワーの差を運動量で補う展開ラグビーで対抗したが敗れ、今季のリーグ戦を終えた

(1日、大阪市・鶴見緑地球技場で)

Aリーグに復帰した天理大学ラグビー部が1日、大阪市の鶴見緑地球技場でリーグ最終戦となる大阪経済大学との試合に臨んだ。

ここまで0勝6敗の同部。Aリーグでの戦いに小松節夫監督は「昇格したとはい、Bリーグの昨年と戦力は何も変わっていないので、苦しい戦いは覚悟していた」と話す。

相手は同じ6敗。勝敗がAリーグの順位を決め、勝てば7位となりBリーグ2

位と、負ければ8位で同1位との入れ替え戦に臨むことになる。「相手はパワーのあるフォワードの縦突進を中心に戦をしかけてくる。それをしのぎ、ボールを左右に散らして攻撃に転じられるかがカギ」と小松監督。

天理大は開始早々に連続攻撃から先制のトライ。幸先良くスタートしたもののは12分、同点のトライを奪われる。その後、ディフェンスに費やす時間が多くなり、攻めながらもノックオ

ンなどのミスでゴールラインが遠のく。次第に相手ペースになり、33分、40分と逆に加点され、7-21で後半へ。

後半での逆転に期待がかかつたが、11分にペナルティーゴールを決められると、12、16分と連続のトライで突き放されてしまう。終盤に3連続トライで意地を見せるも追いつかず、28-46でノーサイドとなつた。

試合後、小松監督は「反撃が遅すぎた。きょうのゲーム内容では入れ替え戦も厳しい。試合までにやらなければならぬことが多い」と厳しい口調で語った。

なお、天理大はAリーグ残留を懸けて14日、京都市・宝が池球技場で午後1時から花園大学と対戦する。